

# 史跡津輕氏城跡（弘前城跡） 弘前城本丸発掘調査報告書

一本丸石垣解体修理事業に係る発掘調査一



2017（平成29）年度

青森県弘前市



天守台石垣解体状況（平成29年11月29日撮影）東から



A13天端石下（イ-1-85下）鉄製ノミ出土状況（北西から）



排水遺構全景（東から）



井戸遺構全景（西から）

## 序

弘前城跡は、弘前藩初代藩主・津軽為信が築城を計画し、2代藩主・信枚によって慶長16年（1611）に築かれた近世城郭です。

本丸東側の石垣は、築城時には築きかけの状態でしたが、およそ80年後の元禄7年（1694）に積み足しが開始され、同12年（1699）に完成しています。明治27年～29年（1894～96）、天守台付近の石垣が崩落しました。石垣を修理するため、明治30年（1897）に弘前市出身の大工棟梁・堀江佐吉が天守を西側へ曳屋しています。石垣の修理は大正4年（1915）に完成し、天守を元の位置に曳き戻して、現在の本丸東側石垣が成立しました。

近年、本丸東側石垣の天守台下から中央部にかけての膨らみが大きくなり、再び石垣崩落の危険性が生じてきたことから、弘前市では平成20年度に弘前城跡本丸石垣修理委員会を組織して、修理の方向性について検討を重ね、平成23年度に石垣解体修理の方針を決定しております。

本丸東側石垣の発掘調査には、まず平成24年度のトレンチ調査から着手し、続く25～28年度には、石垣修理対象範囲全域における背面構造の確認調査を実施しております。本年度からは石垣の解体調査に着手し、解体面積1,100㎡・築石数約3,000石のうち40%程度について、解体を終えました。その結果、平成28年度までの調査で確認していた明治～大正時代の修理範囲がより明確となったほか、江戸時代まで遡るとされる井戸遺構や排水遺構を確認するなど、弘前城跡の歴史を物語る新たな知見を得ることができました。これらの成果については、来年度まで継続する石垣解体調査及び平成31年度より着手予定の石垣整備工事の詳細内容決定に活かして参りたいと考えております。

最後になりましたが、発掘調査の実施及び本書の作成にあたり、ご指導・ご協力を賜りました文化庁・青森県教育委員会をはじめ、弘前城跡本丸石垣修理委員会並びに発掘調査委員会、関係機関や個人の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成30年3月

弘前市長

葛 西 憲 之

## 例 言

- 1 本書は、弘前市が平成 25～28 年度に実施した、石垣解体修理事業に係る史跡津軽氏城跡弘前城跡弘前城本丸東端平場・本丸東側石垣根石の発掘調査報告書である。内容としては、平成 25～28 年度に刊行した『史跡津軽氏城跡（弘前城跡）弘前城本丸発掘調査概報』Ⅰ～Ⅳの総括となり、遺構の報告が中心である。
- 2 本書には、弘前市が平成 29 年度に実施した弘前城本丸東側石垣の解体調査概報も含まれる。
- 3 石垣解体修理事業に係る史跡津軽氏城跡弘前城跡弘前城本丸石垣の発掘調査は、弘前市都市環境部公園緑地課弘前城整備活用推進室が実施した。
- 4 本書の編集・構成は弘前市都市環境部公園緑地課弘前城整備活用推進室が行い、執筆は今野沙貴子が担当した。
- 5 内濠Ｃトレンチで検出された木材および天守台天端で検出された鉛製チキリの自然科学分析は、株式会社パリノ・サーヴェイが行った。
- 6 根石下地盤の試験は、大泉開発株式会社（本社：青森市浪館前田四丁目 10-25）が行った。
- 7 天守台で検出されたコンクリートの分析は、株式会社太平洋コンサルタント解析技術部解析グループが行った。
- 8 天守台北側で検出された底盤コンクリートの強度試験は、株式会社共同生コンが実施した。
- 9 石垣解体修理事業に係る弘前城跡本丸東側石垣の解体調査は途中段階であり、今後調査の進展によって見解が変化する可能性も考えられる。
- 10 最終的な修理事業報告書は、2024 年度に刊行する予定である。本書に掲載しきれなかった内容等については、別途刊行する報告書での報告とする。
- 11 出土遺物及び実測図・記録写真等の資料は、修理事業報告書刊行後に弘前市教育委員会に譲渡し、適正に保管のうえ、積極的に活用を図る。
- 12 本書に一部引用している『平成 22 年度弘前城本丸石垣カルテ作成業務成果品』①～③は、公益財団法人文化財建造物保存技術協会によって作成されたものであり、現在弘前城整備活用推進室が保存・管理している。
- 13 本書の内容には、弘前城跡本丸石垣発掘調査委員会での指導・意見が反映されている。
- 14 平成 29 年度弘前城跡本丸石垣修理事業の実施及び発掘調査・本書の作成にあたり、下記の機関・諸氏からご指導・ご協力を賜った。ここに記載して感謝の意を表する（敬称略）。

青森県環境生活部県民生活文化課県史編さんグループ 青森県立郷土館 一般財団法人弘前市みどりの協会  
株式会社西村組 亀岡石材店 高照神社 弘前市教育委員会文化財課 弘前市立博物館 弘前市立図書館  
阿保正義 遠藤嘉一 大八木謙司 片岡太郎 小嶋修造 相馬勇 高田徹 鶴島俊彦 外崎優美子  
土岐淳逸 似内啓邦 西田郁乃 福士志美子 渡部紀

## 凡 例

- 1 本書に掲載した地図は、国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 の地形図及び弘前市発行の 5 千分の 1 の地形図に基づき作成したものである。
- 2 土層の色調観察は、「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1996）を使用した。
- 3 挿図の表記は、下記のとおりである。
  - （1）方位は真北を表す。（2）レベルは、標高を表す。（3）縮尺は、図ごとにスケールを付した。
  - （4）実線（——）は調査区上端及び遺構、破線（- - -）は調査区下端及び遺構推定線を主に表す。
- 4 遺構図において土層断面のセクションポイントは、平面・断面図ともに断示線の内側にある。これは、過去に刊行した「概報Ⅰ～Ⅳ」（平成 25～28 年度）においても同様である。
- 5 遺構・遺物観察については、下記のとおり行っている。
  - （1）法量：単位は cm である。また、（ ）は推定値、〈 〉は現存値を表し、計測不能なものは一で表示している。
  - （2）胎土含有物：砂粒の径の表現は、「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1996）に準拠し、礫＞2 mm＞粗砂＞0.2 mm＞細砂としている。粗砂を、主に「砂粒」と表記する。
  - （3）色調：「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1996）を使用した。
- 6 出土遺物写真の縮尺は、統一していない。
- 7 抄録の緯度・経度は国土地理院「地図閲覧サービス（ウォッチず）」で検索したもので、世界測地系に基づいている。

# 目次

序

例言・凡例

目次

挿図目次

表目次

巻頭写真

第1章 調査の概要	1
1. 保存管理計画および整備計画の策定	1
2. 弘前城跡本丸石垣修理事業の経緯	3
第2章 調査要項（平成25～28年度）	5
第3章 遺跡の概要	11
1. 史跡津軽氏城跡弘前城跡の概要	11
(1) 近世大名津軽氏の成立と弘前城築城	11
(2) 史跡津軽氏城跡弘前城跡	11
2. 弘前城跡本丸東側石垣の履歴	12
(1) 近世の本丸東側石垣	12
(2) 弘前公園の整備と本丸東側石垣の修理	18
3. 地理的環境	26
4. 歴史的環境	28
第4章 本丸平場発掘調査	30
1. 調査の方法	30
2. 調査の経過	30
3. 調査成果	32
(1) 本丸東側石垣	33
① I期	33
② II期	34
③ III期	34
④ IV期	37
⑤ V-a期	37
⑥ V-b期	40
(2) 本丸南側石垣	40
(3) その他の遺構	40
第5章 本丸東側石垣根石の調査	48
1. 調査の経緯と方法	48
2. 調査の経過	48
3. 調査成果	50
(1) Aトレンチ	50

(2) 東側石垣南端コンクリート	50
(3) Bトレンチ	50
(4) Cトレンチ	52
4. 弘前城跡本丸東側石垣根石下地盤の試験結果 (大泉開発株式会社)	54
(1) 原位置試験 (簡易動的コーン貫入試験)	54
(2) 室内土質試験	59
5. 内濠Cトレンチで検出された角材の年代測定 (パリノ・サーヴェイ株式会社)	66
6. 弘前城跡本丸東側石垣築石の石質と根石下で確認された地山の観察 (柴正敏)	68
第6章 平成25～28年度調査のまとめ	70
第7章 平成29年度 弘前城跡本丸東側石垣解体調査の概報	71
1. 調査の経緯と方法	71
2. 平成29年度調査要項	72
3. 調査の経過	74
4. 調査成果	77
(1) 石垣	77
① V-a期	77
② 天守台石垣	79
③ III期	85
(2) 排水遺構	85
(3) 井戸遺構	85
5. 平成29年天守台北側底盤コンクリート強度試験成績報告 (株式会社共同生コン)	88
6. 弘前城本丸石垣で検出されたコンクリートの観察 (株式会社太平洋コンサルタント)	89
7. 弘前城天守台天端南東隅で検出した鉛製チキリの自然科学分析 (パリノ・サーヴェイ株式会社)	97
引用・参考文献	99
報告書抄録	100



津軽旧城跡公園ノ景 (明治30年～大正4年)  
佐藤氏提供



弘前城跡本丸・津軽為信像 (昭和初期)  
外崎家所蔵

## 挿図目次

図版 1	史跡津軽氏城跡弘前城跡位置図	1
図版 2	平成 25 ～ 28 年度調査史跡及び調査対象区域	2
図版 3	天守台石垣北側の目地の開き（昭和 43 年（1968）撮影）北から	3
図版 4	石垣解体計画立面図	8
図版 5	弘前城跡本丸東側石垣解体修理に係る発掘調査範囲（平成 24 ～ 28 年度）	9 ～ 10
図版 6	津軽弘前城之絵図（本丸部分拡大）正保 2 年（1645）弘前市立博物館所蔵	13
図版 7	古写真【明治 5 年（1872）】弘前市相馬家所蔵	14
図版 8	古写真【明治 4 ～ 6 年（1871 ～ 73）】弘前市立図書館所蔵（山上貢旧蔵写真）	14
図版 9	古写真【明治時代初期】弘前市立博物館所蔵	15
図版 10	青森県生活環境部県民生活文化課県史編さんグループ提供 明治初期の弘前城天守と本丸御殿	15
図版 11	古写真【明治時代初期】弘前市立博物館所蔵（西谷休之助撮影）	16
図版 12	古写真【明治 5 年（1872）】弘前市立博物館所蔵（西谷休之助撮影）	16
図版 13	古写真【明治時代初期】高照神社所蔵	17
図版 14	古写真【明治時代初期】阿保正義氏提供	17
図版 15	明治 27 年（1894）「弘前旧城本丸内隅櫓下石垣 前面之図」弘前市立図書館所蔵	20
図版 16	明治 27 年（1894）「弘前旧城本丸内隅櫓下石垣断面之図」弘前市立図書館所蔵	20
図版 17	明治 27 年（1894）7 月 10 日付「東奥日報」	20
図版 18	明治 29 年（1896）「本丸天守閣石垣崩壊之図」弘前市立図書館所蔵	20
図版 19	大正 4 年（1915）7 月 1 日付「弘前新聞」	20
図版 20	天守土台角材の側面に入る貫通穴（天守土台中央付近）西から	20
図版 21	天守土台下面についた「キリン器械」の痕跡	20
図版 22	古写真【明治 27 ～ 29 年（1894 ～ 1896）か】	21
図版 23	古写真【明治 27 ～ 29 年（1894 ～ 1896）か】弘前市都市環境部公園緑地課所蔵	21
図版 24	古写真【明治 30 年～大正 4 年（1897 ～ 1915）】青森県立郷土館所蔵	22
図版 25	古写真【明治 30 ～ 35 年（1897 ～ 1902）】	22
図版 26	古写真【明治 30 年～大正 4 年（1897 ～ 1915）】函館市中央図書館所蔵	23
図版 27	古写真【明治 30 年～大正 4 年（1897 ～ 1915）】弘前市立博物館所蔵	23
図版 28	古写真【明治 41 年（1908）】弘前市立博物館所蔵	24
図版 29	古写真【明治 30 年～大正元年（1897 ～ 1912）】弘前市都市環境部公園緑地課所蔵	24
図版 30	古写真【大正 4 年（1915）】弘前市経営戦略部広聴広報課所蔵	25
図版 31	古写真【昭和 19 年（1944）】弘前市立図書館所蔵	25
図版 32	地形分類図（青森県：土地分類基本調査—弘前—）	27
図版 33	表層地質図（青森県：土地分類基本調査—弘前—）	27
図版 34	石切丁場跡の位置と史跡周辺の遺跡	29
図版 35	平成 24 ～ 28 年度 弘前城跡本丸石垣発掘調査平面図等	35 ～ 36
図版 36	天守台上面平面図・断面図・天守台北側石垣立面図	41
図版 37	弘前城天守台	42
図版 38	石垣背面土層断面図①	43
図版 39	石垣背面土層断面図②	44
図版 40	天守台石段上平場と本丸南側石垣	45
図版 41	I 期～Ⅲ期の石垣	46



図版42	V期の石垣・本丸南側石垣	47
図版43	根石の調査経過	49
図版44	内濠A・Bトレンチ	51
図版45	内濠Cトレンチ	53
図版46	解体調査風景（東から）	73
図版47	解体調査の経過	75
図版48	天守台土台と天守台上面の関係	76
図版49	弘前城天守台地鎮遺構（写真）	77
図版50	弘前城天守台地鎮遺構	78
図版51	大正4年8月30日付「弘前新聞」と天守台築石の銘	80
図版52	平成29年度弘前城跡本丸東側石垣解体調査	81～82
図版53	天守台石垣・二の丸未申櫓台石垣	84
図版54	天守台石垣立面図	86
図版55	V-a期の石垣とⅢ期の石垣	87

## 表 目 次

表1	弘前城跡本丸東側石垣 近代の石垣崩落と修理関係史料	19
表2	史跡周辺の遺跡	29
表3	平成25～28年度弘前城跡本丸東側石垣発掘調査 盛土整理表	32
表4	弘前城天守台石垣と二の丸櫓台石垣等の特徴	83
表5	近代以降の弘前城跡と本丸石垣修理	87

※第5章 -4・5・6および第7章 -5・6・7については、それぞれの著者が独立した挿図番号・表番号を付して報告している。



弘前城跡全景

# 第1章 調査の概要

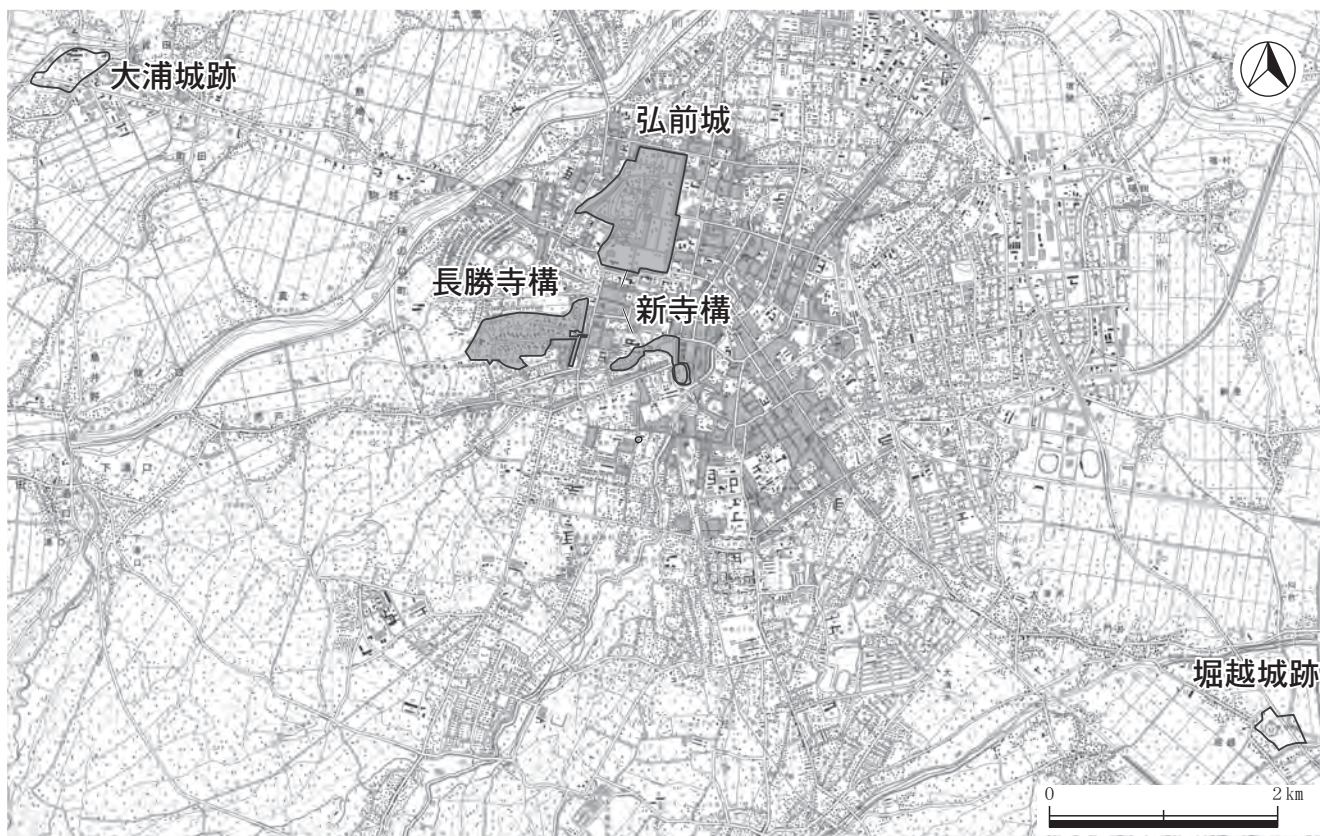
## 1. 保存管理計画および整備計画の策定

「史跡津軽氏城跡」は、青森県内に所在する種里城跡・堀越城跡・弘前城跡の3つの城跡で構成される史跡である。これらは戦国時代から江戸時代にかけて津軽地方を統治した津軽氏の居城跡で、種里城跡は西津軽郡鯨ヶ沢町に、堀越城跡・弘前城跡は弘前市（以下、「市」とする。）に所在する。

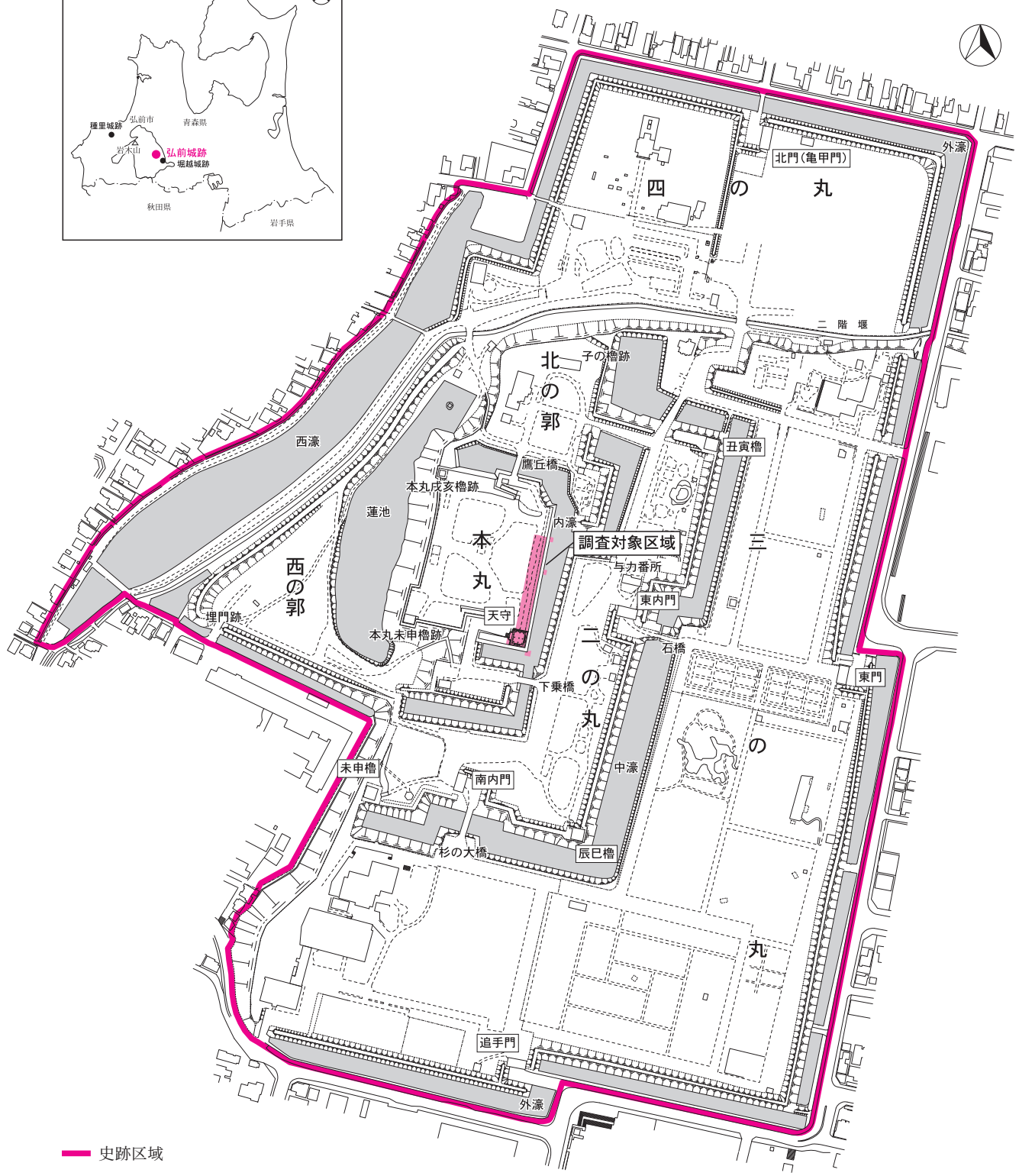
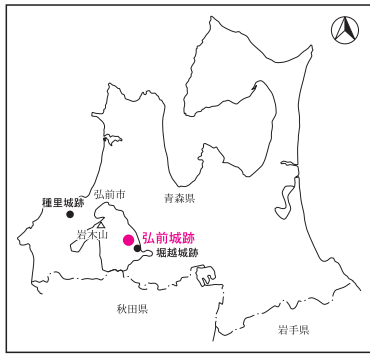
本史跡は昭和27年（1952）、津軽氏の居城である弘前城、出城構として構築された寺院街でもある長勝寺構、城下南限を画する溜池跡である最勝院構（のちに「新寺構」に改称）が、「弘前城跡」として国の史跡指定を受けたことに始まる（図版1）。その後、津軽氏の発展過程を理解するためには、弘前城以前の居城も同様に保存すべきという考えから、昭和60年（1985）に堀越城跡（弘前市大字堀越字柏田・同市大字川合字岡本）が、平成14年（2002）に種里城跡（西津軽郡鯨ヶ沢町大字種里町大柳）が追加指定を受け、現在に至っている（図版2）。

史跡津軽氏城跡のうち、弘前城跡においては、市が昭和53年度（1978～79）・同63年度（1988～89）に保存管理計画を策定し、それをもとに現状保存のための管理・復旧に重点を置く整備が進められていた。その後、史跡整備においては保存だけでなく積極的な活用も求められるようになり、史跡全体の将来像を想定しないままでの保存・整備・活用等の事業展開が困難になったことから、平成17年度（2005～06）に保存管理計画の見直しが行われ、「活用」も含めた整備方針等を盛り込んだ『史跡津軽氏城跡保存管理計画』（以下「保存管理計画」とする）が策定されている。さらに平成21年度（2009～10）には、弘前城築城から400年目の節目を翌年に控えていたこともあり、より具体的な弘前城跡の保存・整備・活用の基本方針と具体的な計画を示した『史跡津軽氏城跡弘前城跡整備計画』（以下「整備計画」とする）が策定された。

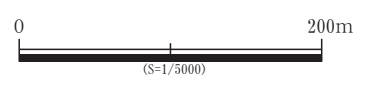
後述する「弘前城本丸石垣修理事業」の必要性については、上記の計画のうち、昭和63年度以降の「保存管理計画」及び「整備計画」に明記されている。



図版1 史跡津軽氏城跡弘前城跡位置図



史跡津軽氏城跡 弘前城跡 弘前城



図版 2 平成25~28年度調査史跡及び調査対象区域

## 2. 弘前城跡本丸石垣修理事業の経緯

弘前城跡本丸東側の石垣については、昭和 63 年度以降の「保存管理計画」及び「整備計画」に修理の必要性が明記されている。弘前城跡本丸東側石垣の孕みは昭和 30 年代初期には生じ、東側石垣の南端上部・本丸南東隅に位置する天守台石垣も当時から傾いていたとされる。この話を裏付けるように、昭和 40 年代（1965～）に撮影された天守台北側石垣の写真には、現況で認められる石垣の目地の開きが写り込んでいる（図版 3）。天守台北側石垣の目地の開きは、現況で最大 7 cm を測る。

昭和 58 年（1983）5 月の日本海中部地震を受け、市は翌 59 年（1984）から文化庁の指導を受けて本丸東側石垣の定点観測を開始し、平成 14 年度（2002～03）まで継続して実施した。その結果、以下の石垣の変位が明確となった。

- ①築石が毎年数 mm～数 cm ほどの規模で本丸側・内濠側双方へ変位（移動）を繰り返しており、年月を重ねるごとに変位が内濠側の一定方向に蓄積されて、築石にずれが生じていること。
- ②本丸東側石垣中央部において、最大約 1 m 内濠側へ孕んでいること。（弘前市都市環境部公園緑地課弘前城整備活用推進室 2016・p 9）
- ③天守が北東隅で約 30 cm 沈下していること。

これらの結果を受け、平成 12 年度（2000～01）・同 15 年度（2003～04）に実施された石垣概要診断調査では、石垣の孕みが進行した場合、天守を巻き込んだ石垣崩落の恐れがあると診断された。市は翌 16 年度（2004～05）に石垣修理計画を策定し、同 19 年度（2007～08）より国の補助を受けて石垣の変位測量・3次元測量・地質調査・地下水位観測といった基礎調査を開始した。

石垣修理事業の推進に当たり、市は文化庁及び青森県教育委員会からの指導を受けるとともに、さらに専門的立場からの指導・助言を得るため、平成 20 年度（2008～09）に弘前城跡本丸石垣修理委員会を組織した（以下「石垣修理委員会」とする）。また、同 24 年度（2012～13）には石垣修理委員会の下部組織として弘前城跡本丸石垣発掘調査委員会も組織し（以下「発掘調査委員会」とする）、石垣の発掘調査に関する指導・助言を受けることとした。



図版 3 天守台石垣北側の目地の開き（昭和 43 年（1968）撮影）北から

石垣修理委員会では、平成 23 年度（2011～12）の第 5 回委員会で石垣解体修理の方針が示され、さらに翌 24 年度（2012～13）の第 7 回委員会では、解体修理の必要な範囲が具体的に示された。解体修理範囲は、天守台石垣を含む本丸東側石垣の南端から北へ約 100m と、南側石垣の東端から西へ約 17m の範囲である（図版 4）。

石垣解体工事着手前の段階では、修理対象範囲においては根石のみを残し、下から 2 石目より上はすべて解体・積み直しとする基本方針を掲げ、解体調査により石垣の年代観や傷みの程度が明らかになり次第、その都度修理範囲を検討することとした。

平成 27 年（2015）には、解体修理範囲の石垣上にある天守を曳家で移動し、平成 28 年（2016）より石垣解体工事（準備工）に着手している。なお、修理範囲に位置する築石は 2,518 石（番付済）であり、間詰石も含めると全体で 3,000 石程度の石材数になるものと想定される。

以下、事業の全体計画を記す。

平成 19 年度～	基礎調査（地質調査・石垣変位測量・平面測量・基準点測量・地下水位計測・地盤傾斜計測・基準点間距離計測・3次元変位計測等）
平成 22 年度	石垣カルテ作成（公益財団法人文化財建造物保存技術協会に委託）
平成 23 年度	石垣カルテ追加調査（弘前市如来瀬石切丁場跡の測量調査）
平成 24 年度	弘前城跡本丸石垣試掘調査・石垣カルテ追加調査（弘前市如来瀬石切丁場跡・兼平石切丁場跡測量調査）、天守曳屋基本設計
平成 25 年度	石垣修理に係る弘前城跡本丸東端部平場発掘調査（1次）、天守曳屋実施設計、石垣修理基本設計、石垣修理に係る新補石材調査
平成 26 年度	石垣修理に係る弘前城跡本丸東端部平場発掘調査（2次）、石垣修理に係る内濠埋め立て工事、天守基礎調査
平成 27 年度	石垣修理に係る弘前城跡本丸東端部平場発掘調査（3次）、天守曳屋工事（本丸南東隅から本丸中央部へ一時的に移動）、石垣修理実施設計
平成 28 年度	石垣修理に係る弘前城跡本丸東端部平場発掘調査（4次）、本丸東側石垣根石発掘調査、石垣解体修理工事着手（雑木払い・築石への番付・墨入れ等）
平成 29 年度	石垣解体調査着手（1次調査）
平成 30 年度	石垣解体調査（2次）
2019 年度	石垣積上工事着手
2021 年度	天守曳屋工事（元の位置に曳き戻し）
2022 年度	重要文化財天守保存修理（2023 年度まで継続）
2023 年度	石垣積上工事終了、園路等復旧
2024 年度	修理事業報告書刊行

なお、これまでに行った石垣基礎調査及び発掘調査成果に基づき、石垣の孕みの原因には地下水の滞留、石垣背面盛土の地滑り、内濠水際の築石面の破損、修理対象範囲石垣の構造的な問題（裏込幅の狭さ・盛土の土質・様相の異なる石積みの境界など）、築城前の自然地形等を想定している。

【追記】平成 22 年度（2010～11）に公益財団法人文化財建造物保存技術協会が作成した『平成 22 年度弘前城本丸石垣カルテ作成業務成果品』は①報告書、②現地調査写真集、③石垣カルテの 3 分冊に分かれている。それぞれについて、下記報告書中に一部抜粋（一部改変あり）してあることを、参考までに明記しておく。

- ① 報告書
  - ・弘前市教育委員会 2012『史跡津軽氏城跡弘前城北の郭南西坂発掘調査報告書』pp. 4～25・34～48
  - ・弘前市教育委員会 2013『史跡津軽氏城跡弘前城本丸石垣発掘調査報告書』pp. 4～21
  - ・弘前市都市環境部公園緑地課弘前城整備活用推進室 2016『史跡津軽氏城跡（弘前城跡）弘前城本丸発掘調査概報Ⅲ』pp. 21～23（古写真を掲載）
- ② 現地調査写真集
  - ・弘前市都市環境部公園緑地課弘前城整備活用推進室 2016『史跡津軽氏城跡（弘前城跡）弘前城本丸発掘調査概報Ⅲ』pp. 25～28（写真集の一部を掲載）
- ③ 石垣カルテ
  - ・弘前市都市環境部公園緑地課弘前城整備活用推進室 2016『史跡津軽氏城跡（弘前城跡）弘前城本丸発掘調査概報Ⅲ』pp. 29～32（本丸南面・東面石垣のカルテを掲載）

## 第2章 調査要項（平成25～28年度）

### 1 調査の目的

史跡津軽氏城跡種里城跡・堀越城跡・弘前城跡（うち弘前城跡）における弘前城本丸東側石垣の解体修理に伴い、事前に本丸平場・内濠で地下遺構の確認調査を行う。

### 2 史跡名及び所在地

（史跡）史跡津軽氏城跡 種里城跡・堀越城跡・弘前城跡（うち弘前城跡）（図版2）

（所在地）青森県弘前市大字下白銀町1番地

### 3 事業期間

平成25年度～29年度までの5か年計画

（発掘調査）平成25年度～平成28年度

（整理・報告書作成）平成29年度

5か年計画の調査であるため、平成25年度から28年度は概報を刊行し、平成29年度以降に本報告書を刊行する。

### 4 発掘調査期間

（平成25年度）平成25年7月16日～平成25年12月20日

（平成26年度）平成26年6月16日～平成26年12月8日

（平成27年度）平成27年5月26日～平成27年11月30日

（平成28年度）平成28年6月6日～平成28年12月28日

平成29年3月13日～平成29年3月31日

### 5 調査面積

（全体）1,056㎡（図版5）

（平成25年度）690㎡ 本丸東端部の確認調査（攪乱状況確認・近世の遺構検出）

（平成26年度）700㎡ 平成25年度調査区南側の精査

（平成27年度）350㎡ 平成25年度調査区北側の精査

（平成28年度）320㎡ 平成27年度調査区北端付近と天守台付近の発掘調査

24㎡ 本丸東側石垣根石の発掘調査（内濠A・Bトレンチの調査）

12㎡ 本丸東側石垣根石の発掘調査（内濠Cトレンチの調査）

### 6 指導委員会

（弘前城跡本丸石垣修理委員会）

石垣修理事業全般については、弘前城跡本丸石垣修理委員会の指導を受けて事業を進める。委員は以下の通り。

委員長 田中 哲雄（元文化庁主任文化財調査官：石垣・城郭）

委員 北垣 聰一郎（石川県金沢城調査研究所名誉所長：石垣・城郭）

委員 千田 嘉博（奈良大学教授：城郭）

委員 長谷川 成一（弘前大学名誉教授：歴史）

委員 福井 敏隆（弘前市文化財審議委員長：歴史）

委員 関根 達人（弘前大学教授：考古）

委員 柳沢 栄司（東北大学名誉教授：耐震）

委員 麓 和善（名古屋工業大学教授：建造物）

(弘前城跡本丸石垣発掘調査委員会)

発掘調査については、弘前城跡本丸石垣修理委員会の下部組織として、弘前城跡本丸石垣発掘調査委員会を組織し、指導を受けて進める。委員は以下の通り。

委員長 関根 達人 (弘前大学教授：考古)  
委員 柴 正敏 (弘前大学教授：地質)  
委員 福井 敏隆 (弘前市文化財審議委員長：歴史)  
委員 金森 安孝 (仙台市富沢遺跡保存館長：石垣)  
委員 上條 信彦 (弘前大学准教授：考古)

## 7 調査機関

弘前市長 葛西憲之

(担当課) 弘前市都市環境部公園緑地課弘前城整備活用推進室

## 8 調査組織

(1) 平成 25 年度

(事務局) 古川 勝 (公園緑地課長兼弘前城整備活用推進室長)  
石川 竜明 (公園緑地課弘前城整備活用推進室総括主査)  
横山 幸男 ( " " 主査)  
(発掘担当) 今野 沙貴子 ( " " 主事)  
岡本 康嗣 ( " " 主査)  
石郷岡 幹人 (弘前市教育委員会文化財課埋蔵文化財嘱託員)  
桑田 純也 ( " " " )

(発掘作業員)

虻川尚導 石田さとみ 岩淵真弓 岩谷崇徳 長内美紀子 河原久美 菊地秀 工藤祥子  
工藤宏子 小西悦子 下山一男 下山眞佐子 神晶子 相馬渚 高橋孝子 對馬節子 津嶋元氣  
長尾晶子 鳴海順四郎 村田明日香

(整理作業員)

河原久美 木浪遼太 小館典子 小西悦子 佐藤幸博 成田さおり 蒔苗貴子 棟方恵  
村田明日香 横濱敏子

(2) 平成 26 年度

(事務局) 古川 勝 (公園緑地課長兼弘前城整備活用推進室長)  
石川 竜明 (公園緑地課弘前城整備活用推進室主幹)  
横山 幸男 ( " " 主査)  
(発掘担当) 今野 沙貴子 ( " " 主事)  
虻川 尚導 (公園緑地課弘前城整備活用推進室埋蔵文化財嘱託員)  
石郷岡 幹人 ( " " " )  
菊地 秀 ( " " " )  
對馬 清也 ( " " " )

(発掘作業員)

五十嵐實 石田さとみ 岩谷崇徳 及川幸雄 河原久美 齊藤一秀 下山一男 下山眞佐子  
神晶子 對馬節子 津嶋元氣 鳴海順四郎

(整理作業員)

奥崎恵美子 河原久美 小館典子 佐藤幸博 藤田扶美子

(3) 平成 27 年度

(事務局) 古川 勝 (公園緑地課長兼弘前城整備活用推進室長)  
神 雅昭 (公園緑地課弘前城整備活用推進室兼都市環境部スマートシティ推進室総括主幹)  
鶴巻 秀樹 (公園緑地課弘前城整備活用推進室総括主査)  
横山 幸男 ( " " 主査)  
笹森 康司 ( " " 主査)  
(発掘担当) 今野 沙貴子 ( " " 主事)  
虻川 尚導 (公園緑地課弘前城整備活用推進室埋蔵文化財嘱託員)  
石郷岡 幹人 ( " " " )  
菊地 秀 ( " " " )  
對馬 清也 ( " " " )

(発掘作業員)

五十嵐實 石田さとみ 岩谷崇徳 河原久美 小松喜代勝 齊藤一秀 佐藤幸博 下山一男  
下山眞佐子 菖蒲川君江 神晶子 對馬節子 津嶋元氣 鳴海順四郎

(整理作業員)

河原久美 小館典子 佐藤幸博 下山眞佐子 神晶子

(4) 平成 28 年度

(事務局) 古川 勝 (公園緑地課長)  
神 雅昭 (公園緑地課弘前城整備活用推進室長)  
笹森 康司 (公園緑地課弘前城整備活用推進室総括主査)  
横山 幸男 ( " " 主査)  
福井 翔子 ( " " 主事)  
葛川 貴祥 ( " " 主事)  
(発掘担当) 今野 沙貴子 ( " " 主事)  
虻川 尚導 (公園緑地課弘前城整備活用推進室埋蔵文化財嘱託員)  
對馬 清也 ( " " " )

(発掘作業員)

五十嵐實 石田さとみ 岩谷崇徳 齊藤一秀 佐藤幸博 下山一男 菖蒲川君江 田中康浩  
津嶋元氣

(整理作業員)

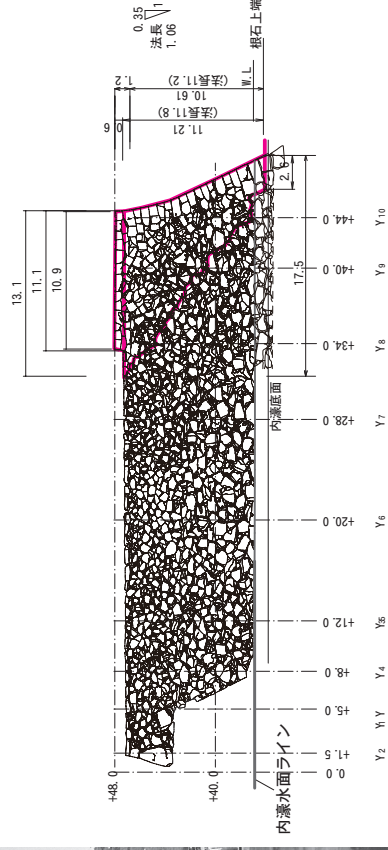
佐藤幸博 下山眞佐子 神晶子



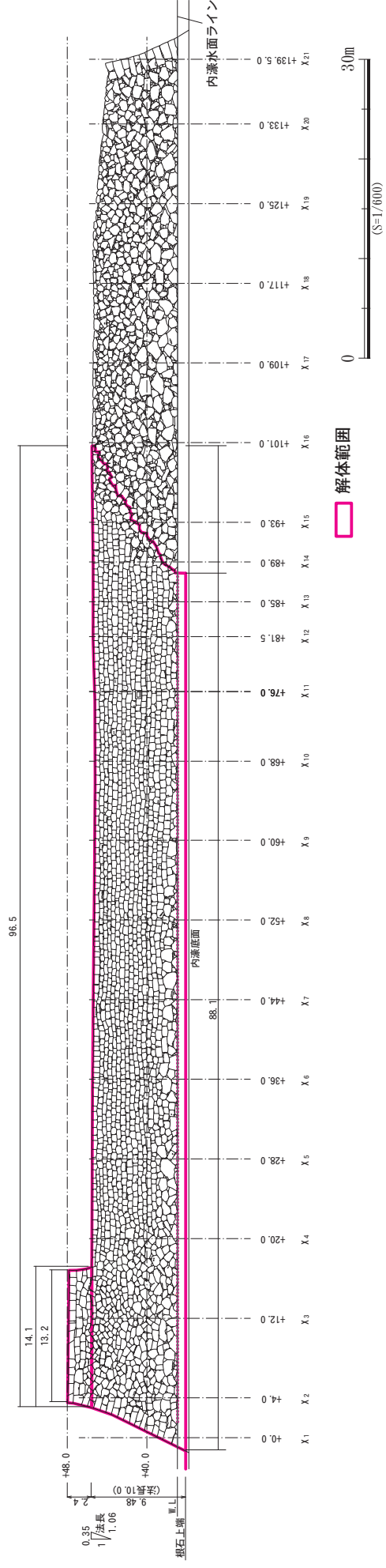


本丸東側・南側石垣全景（南東から）

本丸 南側石垣立面図



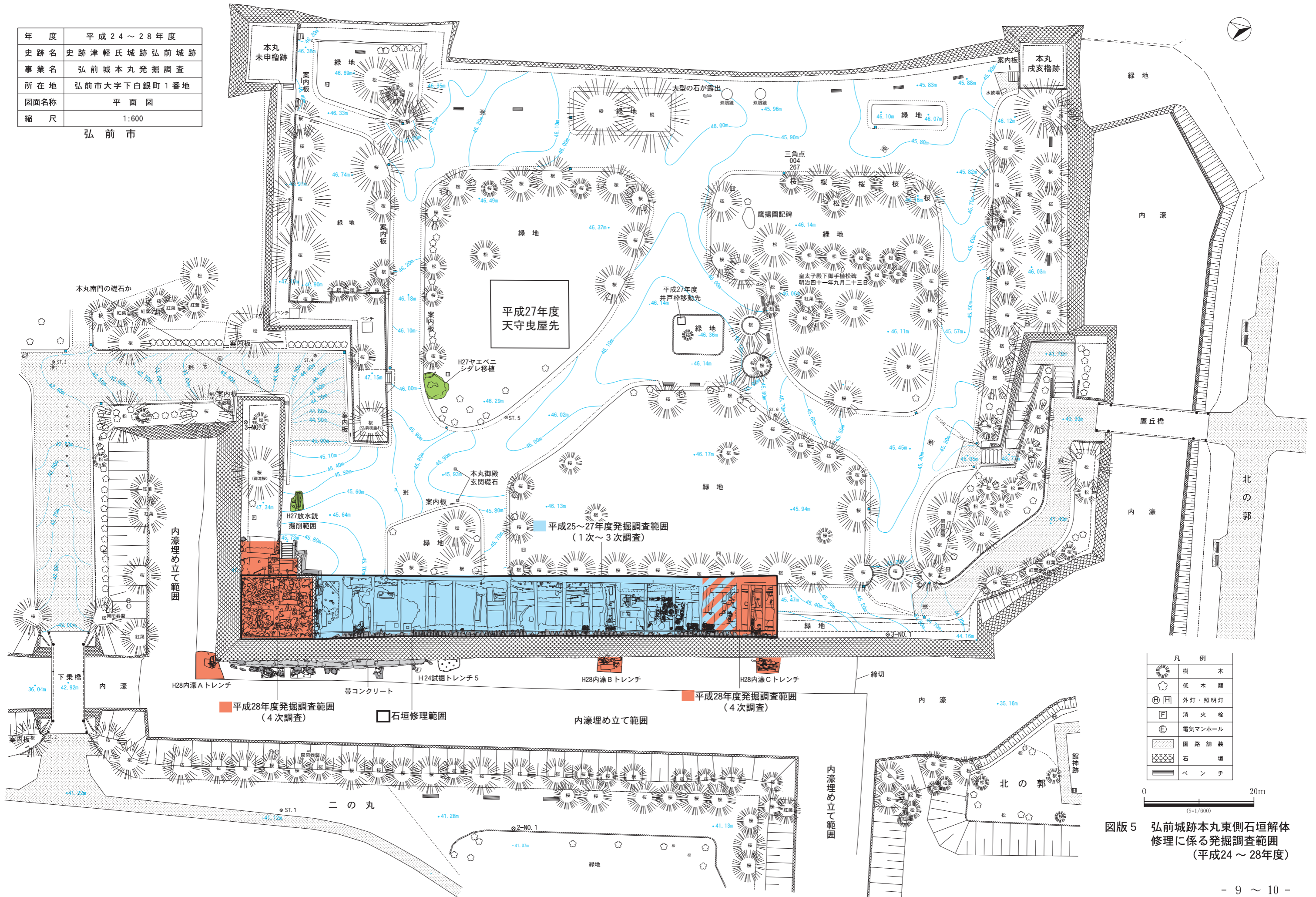
本丸 東側石垣立面図



図版 4 石垣解体計画立面図

年度	平成24～28年度
史跡名	史跡津軽氏城跡弘前城跡
事業名	弘前城本丸発掘調査
所在地	弘前市大字下白銀町1番地
図面名称	平面図
縮尺	1:600

弘前市



図版5 弘前城跡本丸東側石垣解体修理に係る発掘調査範囲 (平成24～28年度)